

第二十二号 「^{せいはい}正派音楽院卒業演奏会」

メルマガnoichi22号。今月のテーマは『正派音楽院卒業演奏会』。

毎年3月14日は、正派音楽院の卒業演奏会。卒業演奏会は音楽院生にとって、感謝の気持ちを伝える場所です。正派音楽院で勉強させてくれた、お父さん。お母さん。在学中教えて頂いた先生方。この道へ導いて下さった親師匠。

今日は私達の精一杯の演奏を、聴いて下さい。

よく混同されるので、今回は冒頭に説明をさせて頂きます。

(公財) ^{せいはい}正派邦楽会は、市ヶ谷にある正派邦楽会館を本拠地とした邦楽の団体です。邦楽会館は私たち正派会員にとって大切な場所で、合奏練習や、楽譜の購入、講習会や合奏団の受講など、何かと会館に行く機会があるものです。

その正派邦楽会館の敷地内に別棟で建てられた正派音楽院は、昭和三十四年に創立された現代の寺子屋で、学問や技能を専門的に勉強したい人が、決められたカリキュラムに沿って勉強する学校形態をとっています。そして今号、メルマガnoichi編集部は正派音楽院の『卒業演奏会』をクローズアップします。

つい先日の三月十四日、在学生にとって一世一代の卒業演奏会が行われ、翌十五日に第五十二期生が晴れて正派音楽院を卒業しました。数年間積み上げてきた勉強の全てが、この最後の二日間で結実します。生徒は勿論、教授陣、親御様、関係者各位にとっては涙なしにはいられない、感動的なシーンが折り重なってゆきます。

私はいつも、音楽院生を大切に想っています。世代が近く、これから共に歩んでいく同志が毎年羽ばたいていく様子を、私なりの強い気持ちで見送っています。

「地元に戻ったら、一人でも多くの人に、音楽院で勉強したことを役立てて下さい」

そんなことを、念じています。

平成二十四年度『第五十二回正派音楽院卒業演奏会』。研究科三名、本科一名にのつての晴れ舞台。当メルマガを通じて初めてご覧になる方の為にも、本年はご来場出来なかった方々の為にも、微力ながら会の様子をお伝えすることが出来れば幸いです。

本年、正派音楽院は研究科三名、本科一名の計四名が卒業した。去る三月十五日の卒業式前日、三月十四日（木）にルーテル市ヶ谷センターホールにて『第五十二回正派音楽院卒業演奏会』が行われた。それぞれが一曲ずつ卒業披露となる演奏を行い、最後に卒業生全員での合奏が行われた。音楽院で二年ないし三年学んだ集大成となる演奏に、不安や緊張を抱えながら、満足のいく演奏ができた人、悔しい思いをしてしまった人と様々だろう。しかし、音楽院で学んだことはきつと意味のあることであり、今後邦楽の世界で生きていくうえで役に立つことがたくさんあったと思う。そこで、今回のメルマガ『nicchi』では、卒業生の労を^{ねぎらい}、今後の活躍に期待を込めて、簡単ではあるがインタビューをさせていただいた。卒業演奏会直後の興奮冷めやらぬ中行ったインタビューの模様をお届けさせていただきます。また、この場をお借りして取材にご協力いただいた音楽院始め関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。



卒業生と親師匠



○石井 香奈さん（研究科卒業）

編集部：本日は、おめでとうございます。

石井：ありがとうございます。

編集部：早速、質問をさせていただきます。卒業演奏を終えた今の気持ちを聞かせていただけますか。

石井：はい、とりあえずホッとしています（笑）終わった！という感じで（笑）

編集部：演奏の出来具合はどうでしたか？

石井：うーん（笑）途中ちよつと途切れてしまったところがあって、悔しい思いはしましたが、今の自分の力だと思っただけからがんばりたいと思います。

編集部：ありがとうございます。二つ目の質問ですが、学生生活でも勉強になったことは何ですか？

石井：そうですね、やはり実技はもちろんですし、その他にも仕事のこと、何と言ってもチームワークですかね。共同生活をしていくので…。

編集部：一人では経験できないことも？

石井：そうですね。音楽院という結構狭い中でみんなで密集して生活しているんですけど、集団生活という意味でもものすごく勉強になりました。

編集部：ありがとうございます。最後の質問ですが、音楽

院の先生方への感謝の気持ちをお聞かせください。

石井：本当に至らない私だったんですけど、ここまで育てていただいて、感謝してもしきれないような思いです。本当にありがとうございます。

編集部：ありがとうございます。卒業後もがんばってください。

石井：ありがとうございました。

○内島 敦子さん（研究科卒業）

編集部：本日は、おめでとうございます。

内島：ありがとうございます。

編集部：早速、インタビューをさせていただきます。在学中の楽しかった思い出は何ですか？

内島：楽しかった思い出は、鍋パーティをしたことですね。

編集部：それはよくされたんですか？

内島：いえ、雅楽之一先生が去年の暮れぐらいに企画してくださいって、みんな疲れているだろうから鍋でもしようって。

編集部：和気あいあいと？

内島：はい。雅楽之一先生社中の皆さんと一緒に音楽院の



↓次ページにつづく

台所で鍋を囲んで、雅楽之一先生が鍋奉行だということがわかりました。コンロ二つ並べて…あれが楽しかったです

(笑)

一同…(笑)

編集部…では在学中、大変だったことは？

内島…大変だったことは…、常日頃大変でしたけど…

(笑)、研究科になって抱えている曲が増えたときが大変でした。数えることが多いと八曲持つる時があつて…

編集部…同じタイミングで八曲？

内島…同じタイミングで一週間に八曲。

編集部…ちなみに本科の時は何曲くらいでしたか？

内島…本科の時は多くて五曲くらいですね。研究科になると十七絃プラス、「下級生の上がりの三弦付けて」とか突如として言われるので、それで三弦曲を急遽練習したりとか。

編集部…自分の曲だけではなくて後輩のためとか、楽器も様々ですね。

内島…そうですね。

編集部…それは大変だったですね。

内島…はい、ちよつと涙が出そうになる週もありましたね、無理つちゅうねんと思いつながら(笑)

編集部…最後の質問ですが、親師匠への感謝の気持ちなどあれば教えてください。

内島…親師匠への感謝の気持ちは…、あ、涙が出そうです…。そうですね、私は音楽院に入るのが当たり前と思って入ってきたんですけども、そこに入ってから話を聞くと、親師匠が出てくれないとか、そういう話を、まあ稀にだとは思いますが、そういう親先生もいるって聞いて、うちの師匠はそれと全く正反対で、やっぱり勉強するなら東京行かないとってことで、東京に出してくれたのでそこはすごくありがたいなと思いました。

編集部…素敵な親先生に出会われましたね。

内島…はい。

編集部…質問は以上となります。ありがとうございました。

内島…ありがとうございました。

○神立 順子さん(研究科卒業)

編集部…本日は、おめでとうございます。

神立…ありがとうございます。

編集部…それでは質問をさせていただきます。音楽院の先生方への感謝の気持ちをお聞かせください。

神立…音楽院は私にとっては雲の上の存在で、入れてまずよかつたなということ、その中で三年間こうして過ごさせていたいただいて、お稽古で得た物というのは、技術とかのみならず、人として過ごすうえでの心の持ちようとか、そういうことまで学ばせていただいて、家族の様に温かく見守っていたので、とっても感謝しています。

編集部…音楽院を目指している方へ一言お願い致します。

神立…音楽院は、大学四年間で学ぶよりも濃い内容のものを本科の二年では学ぶと思うので、それなりの覚悟みたいなものも必要だと思わんですけども、でもまず一回入ってみてもらうって、色んな先生から二年間かけて習えるって

うのは、ほんとにその二年しかないもので、それを一番におススメしたいです。

編集部…ありがとうございます。では最後の質問ですが、

正派音楽院を一言で言うとは？

神立…私の夢でした(初代正派家元・中島雅楽之都の言葉)。

編集部…もう一言！

神立…私も夢でした。私の青春でした(笑)

編集部…ありがとうございます。卒業後もがんばってください。

○木村 友里さん(本科卒業)

編集部…本日は、おめでとうございます。

木村…ありがとうございます。

編集部…早速ですが、卒業演奏を終えた今の気持ちをお聞かせください。

木村…演奏は、自分の実力が出たなということで、今のベストではあつたけれど、それ自体にまだまだ満足していないという感じです。なんだかアスリートみたいな感じですね(笑)

一同…(笑)



↓次ページにつづく

木村..それから、二年間勉強して、だいたい楽しかったです。勉強自体はすごく楽しかったです。それで学びたいと思っていたことが学べてよかったなと思います。

編集部..いい学生生活だったですね？

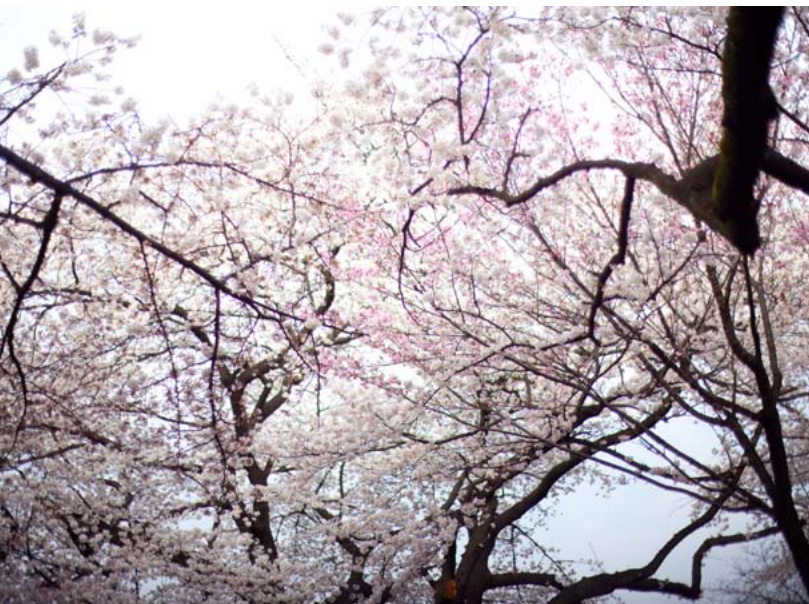
木村..そうですね。でも二年がんばって、まだこのくらいかという風にも思います。まだまだこれからだなと思います。

編集部..卒業後の目標ややりたいことがあれば教えてください。

木村..たくさんあります。それは入学前からたくさん夢があって、それに向かってそれを叶えるためにここに来たんですけれど、その夢が何かというのは秘密(笑)

編集部..秘密ですか？何か一つ教えてもらえませんか？

木村..そうですね、私の友達はお筆をやっていない人が大半なので、そういう全然知らない人にお筆を聞いてもらえようようにしたいなど、そういうことを色々したいなと思



ます。

編集部..ありがとうございます。では最後の質問ですが、親師匠への感謝の気持ちをお聞かせください。

木村..そうですね、私は勉強のキャリアがすごく短いので、反対する人が多くいたんですけど、「あなたにできるの？」みたいなこともあったんですけど、それを思われる

の？」みたいなこともあったんですけど、それを思われる

一言・ひとこと 2

邦楽囃子方 (http://www.tazae.com)

望月 太左衛門

〜ニッポン〜さくらさくら〜

皆様、こんにちは。望月太左衛門でございます。二月発行のメルマガ《notch》第二十一号から、参加させていただいております。前回、五人囃子について書かせていただきましたが、三月三日のひなまつりの雛段をあらためて見直していただけたでしょうか？

五人囃子の真ん中に座っているのが、「小鼓」です。

私が専門にさせていたでいる楽器です。この小鼓、実は分解できます。「胴」「二枚の革」「調べ(麻の紐)」の組み合わせで構成されています。

「胴」は、お椀二つの間に筒があるという、砂時計のような形をしています。中は空洞です。胴の材料は、桜の木が使われています。桜は薄墨桜など、大きな山桜が使われています。桜は、椀のように硬くなく、椀のように柔らかくなく、細工しやすい木だそうです。「二枚の革」は、最近では合成樹脂もありますが、古くは馬の革が使われます。歌舞伎の《義経千本桜》では、狐の革が使われていることになっていますが、狐では小さくて無理なようです。鉄の輪に革を張り、糸で縫い、その上を黒い漆で装飾します。二枚の革のバランスが音を決め、

のは当然なくらいできなかったんだけれど、そこから成長していくっていうことを先生は信じてくださって、そして応援してくださいだったというそのことにすごく感謝しています。

編集部..ありがとうございます。卒業後もがんばってください。

厚みのある方が表革になり、薄い方を裏革として響かせます。「調べ」は、胴と革をはさんでいる縦調べと、また小鼓の奏法に大きく関わる横調べと、二本一組で成り立っています。麻の紐をただ紐と呼ばず、調べと呼ぶ意味はここにあると思います。

鼓の音は大きく分けて、甲と乙、高低二つの音があります。左手で調べを締めて、右手が表革の端を打つと高い音「タ」、左手で調べを弛めて、右手が表革の中央を打つと低い音「ボン」というように打ち分けています。お筆の押し手をイメージしていただくと思います。糸を押すと音が高くなるように、調べを締めると音が高くなります。打ち方は、手を下から振り上げて打ちます。撥を使わず、手で打つことも小鼓の特徴の一つです。

桜の木で作られた胴には漆、蒔絵があり、黒い漆で縁取りしてある革を朱色の麻の調べで結んである小鼓の色彩は、黒と赤に金という日本らしい組み合わせです。起源はインド、中国ともいわれている小鼓ですが、日本の風土にあわせた素材で生み出された日本の楽器、日本の音といえるでしょう。

桜咲くこの季節、日本が日本であることを思いながら、「ニツ、ボン!!の音」小鼓のことを一緒に思い出していただけるとうれしいです！

かみさまの四方山話 5

尺八演奏家 神令

「かみさん」

今年も全国各地に桜の便りが届いている事かと思
います。大寒桜に始まり河津桜、大島桜、染井吉野と
様々な表情で春の訪れに彩りを添えてくれます。

「さくら」は、古くから詞章はもろろの事、人
や学校の名前、今や新幹線までもその名を冠してい
ます。これは、我々日本人のこの花への親しみと愛
情の表れだと思えます。現在は、染井吉野が全国的に
は多く見られるようですが、その名の由来とされてい
る「染井」とは、現在の文京区駒込付近にあった、造
園師や植木職人の集落「染井村」から来ているよう
です。ご存知かも知れませんが、染井吉野は種子では自
然繁殖せず、全て人工的に接木などをして生まれ、遺
伝子的には現在の染井吉野は全てクローンということ
になるそうです。明治神宮外苑にある銀杏並木も、同
様にクローンの銀杏を植樹した為に姿形がとも揃っ
ていると聞いた記憶がありますが、美しいものを作り
出す人の情熱は計り知れません。

さて、前述の染井の地には、とても静かな都立霊園
があります。この霊園や近隣の寺院には著名人のお墓
も多数有り、今もそれぞれの偉人の墓参は絶えませ
ん。墓参というものは不思議なもので、生前に面識
がないのに何故かそこでコミュニケーションが生まれ
るのです。もちろんこちら側からの一方的なコミュニ
ケーションなのかもしれませんが、それでも何かを受
け取る事があります。

春のお彼岸とは少し時期がずれるのですが、毎年三
月の第一週の日曜日には、祖父「神如道」の追善献奏
会の為、京都の東福寺の塔頭の「善慧院」



というお寺に伺います。こちらのお寺は、普化尺八
の総本山である「明暗寺」として尺八関係者から親
しまれ、祖父も生前から深く親交があったため、
「安霊塚」という、尺八演奏家や愛好家に縁の方が眠
るお墓に遺灰の分骨をしてあります。（菩提寺は東
京・地藏寺です。）私自身は、生前の祖父に直接会っ
た事が無いのですが、この追善献奏会「如道忌」でお
会いする諸先輩から沢山の祖父の芸談や思い出話を聞
くことが出来ます。しかし、近年は祖父から直接指導
を受け、公私ともに交流のあった方々も次々と鬼籍に
入られ、お話を伺う機会もだ
んだんと少なくなつて来てし
まった事はとても残念です。

今年も開花も予想以上に早
く、お墓参りとお花見を同時
に出来るかもしれません。桜
の花を愛でながら、先人達の
深い思いを改めて見つめたい
と思います。



Illustration morimoe

!!! Present !!!

今月もやっちゃいます。プレゼントコーナー。
三月は御園座で『黒塚』が掛かり、連日舞
台は熱気に溢れました。そこで、今回のプレ
ゼントは、名古屋の栄に本店を構える大和
屋守口漬総本家から『竹の子奈良漬』。
一度知ったら忘れられない、この味。
是非、ご応募下さい！
応募方法は、メルマガ《noichi》編集部宛
〈mailmagazine@utanoichi.jp〉に、ご住
所、お名前をご明記の上、4月5日迄にメール
をご送信下さいませ。尚、当選者の発表は、
商品の発送をもって代えさせていただきます。

◎あきがき◎

日本では四月から新学期が当たり前。しかしアメリカで
は九月、ブラジルではなんと二月。アメリカもブラジルも
夏休みの後が入学式となっているらしい。日本ではどうし
て四月なのかと聞かれたら、もちろん年度末という言葉も
あるけれど、「桜が四月に咲くから」と言いたい。そんな
中、今年も早くも桜満開。これから入学の方には少し気の
毒だけれど、卒業した方々はおめでどうござります。

グラフィックデザイナー (http://www.1368.jp) みやはらたかお

